

[佳 作]

## 「戦争が生んだもの」

札幌市立羊丘中学校

2年 小岩 宥光

僕は、北方領土問題について考えました。現在でも、解決には程遠いような二国間ですが、なぜ、このような問題が起きてしまったのでしょうか。過去の出来事と現在の状況を調べました。

まず、領土問題の発端は、第二次世界大戦末期、8月9日にソ連軍が宣戦布告、日本軍は8月15日に、ポツダム宣言を受諾し敗戦国となりました。しかし、ポツダム宣言後にソ連軍は北方領土を侵略します。そもそもこの二国間は、日ソ中立条約という条約を結んでおり、その内容は、「お互いに何かあっても、侵略行為は行わない」というものでした。ただ、ソ連側は、日本がその条約を破棄したと主張しているのに対し、日本側も、ソ連が一方的に破棄したと主張。主張が食い違っています。その後1956年に日ソ共同宣言をしました。それは、平和条約を結ぶための交渉の継続、歯舞群島、色丹島については、平和条約を結んだ後、日本に引き渡すことを両国で同意しましたが、未だに平和条約を結べていません。日本側としても、歯舞群島と色丹島の二島の返還では、面積の面からとても不利な現状です。

現在、日ロでの会談が何度か行われてますが、敗戦国になってしまった以上、不利な状況になってしまうと思います。でも、それを乗り越えて解決に向けて進んでほしいと思います。

最後に、北方領土は、水産資源だけではなく鉱山資源にも富んでいます。しかし、元島民の高齢化も進んでいるため、この問題に対する関心もなくなってくるでしょう。でも、もっとビザなし訪問などを活発に行って、この問題を風化させてはいけません。また、日本は様々な領土問題があります。それも含めて、一歩ずつでも解決に近づいてほしいと思います。